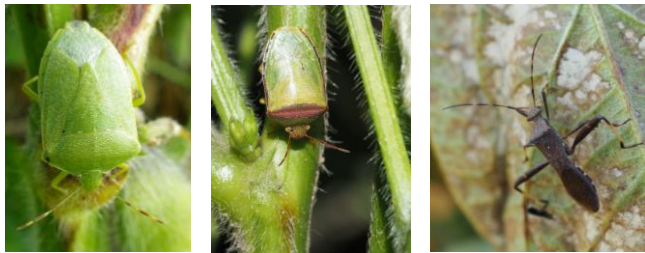


ダイズの収量向上を目的とした吸実性カメムシ類の防除

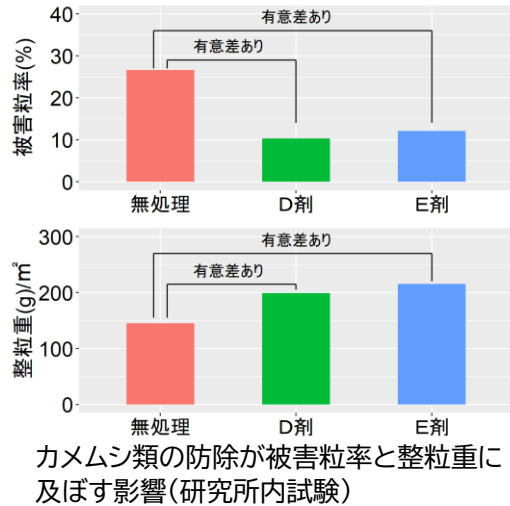
利用対象：生産者、指導者

ダイズの吸実性カメムシ類は、子実被害だけではなく、収量を低下させる要因の一つとされています。本研究ではカメムシ類に有効な防除時期、回数、防除による収量改善効果を明らかにしました。

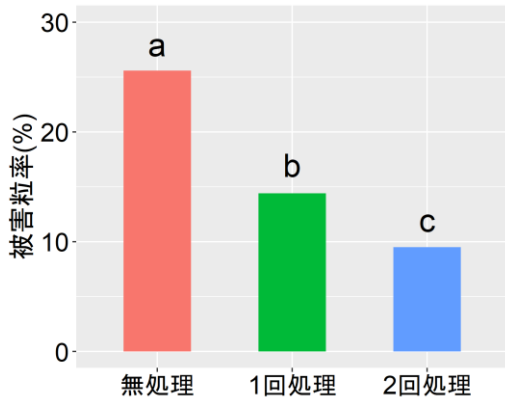
殺虫剤によるカメムシ類防除により、子実被害を抑制することで、収量を改善させる効果も得られます。



ミナミアオカメムシ イチモンジカメムシ ホソヘリカメムシ
ダイズの吸実性カメムシ類の主要3種

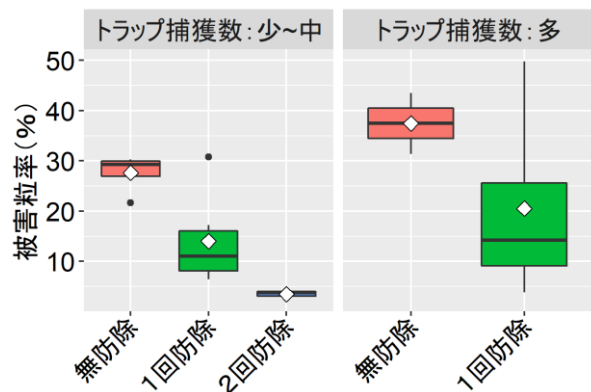


開花 20 日後と 40 日後の 2 回防除により、吸実性カメムシ類による被害粒率をおおむね 10%以内に抑制できます。



殺虫剤処理回数と被害粒率との関係 (研究所内試験)

開花 30 日後の 1 回散布でも、被害粒率を 20%以内に抑制する効果が期待できますが、多発時には十分な効果は得られません。



ミナミアオカメムシの発生量に応じた防除回数と被害粒率との関係(現地試験)

お問い合わせ先

基盤技術研究室 農産物安全安心研究課 西野 実 電話 0598-42-6360
中央農業改良普及センター 磯山繁幸 電話 0598-42-6323

参考になる資料

<http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm>